

首都高速道路の大規模更新・修繕及び機能強化に関する技術検討委員会(第1回)

議事要旨

日時:2021年12月22日(水) 16:00~17:00

場所:首都高速道路株式会社 本社 9階大会議室

出席:委員長 前川 宏一(横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 教授)
委員 砂金 伸治(東京都立大学大学院都市環境科学研究科 教授)
石田 哲也(東京大学大学院工学系研究科 教授)
小根山 裕之(東京都立大学大学院都市環境科学研究科 教授)
白戸 真大(国土交通省 国土技術政策総合研究所 室長)
村越 潤(東京都立大学大学院都市環境科学研究科 教授)
オブザーバー 森本 励(日本高速道路保有・債務返済機構 理事)

議事:

1. 首都高速道路会社側挨拶
2. 委員長ご挨拶
3. 委員紹介
4. 委員会設立趣旨
5. 検討内容
 - 1) 首都高速道路の現状
 - 2) 新たに得られた知見と課題に基づく今後の対応案

(主な意見)

- ・ 羽田トンネルの躯体内部における腐食状況を推測するため、漏水量の増減等を把握する必要があるほか、トンネル内の附属物や設備(電気・機械)の腐食等の把握も必要である。
- ・ 橋梁については、外観からの点検・診断をしっかりと行ってきたという事実を発信すべき。一方、ネットワークの信頼性やサービス水準を高めるためにも、外観から見えない重要部位、一旦損傷が発生すると緊急に通行規制や大規模な対策をせざるを得ない部位など、管理リスクの高い部位を持つ橋梁は、大規模修繕に取り込むという方向性があっても良いのではないか。
- ・ 将来的には、橋梁の舗装打ち換え時に床版上面切削を極力回避できる技術開発について検討が必要ではないか。
- ・ 大規模更新・修繕の工事实施時に発生する渋滞等を軽減するため、ハード対策として回路確保など既存ネットワークの機能強化、ソフト対策として首都圏ネットワーク全体を最大限活用する方策の検討が必要である。また、これらを適切に実施するためには、シミュレーション等の予測評価手法の改良も必要ではないか。
- ・ 当委員会では、構造物の維持管理にあたり、管理リスクの高い箇所や対策優先度について、多角的で専門的な議論を行うことにより、首都高のマネジメント手法のレベルアップを図っていききたい。

以上